

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達スクール かすたねっと（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 13日		～ 2026年 3月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名（定期的な利用者）	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 21日		～ 2026年 3月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援の知識、経験を有する職員が複数在籍している。	チーム支援として、支援経験の長い職員が療育内容の見直しやアドバイス、相談を行うことができる環境を作っております。また、定期的に支援内容を確認し、目標設定と振り返りを行う機会を設けています。	支援経験の長い職員による研修、アドバイス等はこれからも継続してまいります。また、後進の育成にも力をいれ、さらなる療育の質の向上、職員全体のレベルアップを図ってまいります。
2	日頃から保護者様と情報を共有し、お子様の状態に対して共通理解を図り、必要に応じて保護者様との家族支援を行い、保護者様、お子様の双方への支援を行うことが出来ている。	療育実施前には保護者様に最近のご様子をお伺いし、療育実施後には療育でのご様子を共有させていただき、支援の方向性の一致を図っております。お子様の状態や保護者様の悩み等、必要に応じて家族支援にて保護者様への支援を行っております。	環境の変化が大きい時期（行事・就学前）など、通常と異なる際は特に、保護者様と情報共有を密に行い、お子様の状態への共通認識を持つことが出来るよう取り組んでまいります。継続して、適宜保護者様との面談を行うなど、保護者様との情報共有および保護者様への支援の機会を設けてまいります。
3	就学時の情報共有、就学後の地域活動への移行支援を進めることが出来ている。	就学前に、就学先の小学校へお伺いし、お子様のご様子などを共有しております。また進級を見据え、今後必要となる力をお子様や保護者様と共有しております。また、本人に合わせた地域活動等も勧めております。	就学前後に必要な情報共有等は継続して進めてまいります。就学後も学校と連携し、自立への支援が本人の地域活動の充実に繋がるよう努めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援経験の長い職員と支援経験の短い職員間にて、支援スキルの差が大きい。	支援スキルについては実務の積み上げが必要のため、支援経験の浅い職員は支援経験の長い職員との差が顕著にあらわれます。	職員の日々の研鑽と共に、スーパーバイズ体制とOJTを充実させていきます。また地域と連携した外部研修も実施していきます。
2	保護者同士の交流やペアレントトレーニングの機会が少ない。	保護者参観などの機会を設けてはおりますが、お仕事や事業所までの距離との関係もあり、参加の難しい保護者様もいらっしゃいました。	保護者参観の頻度を増やしたり、zoomでの研修会など、保護者が参加できる形での交流の機会を設けていきます。
3	不登校児への対応として、地域活動との連携が弱い。	不登校児への対応として、学校だけではなく、地域に居場所を作り、外に出ることを目標として進めております。しかし、不安定な課題（キャンセルが多い等）があります。	不登校児への対応について、お子様の状態に合わせてながら対応方法は柔軟に変化させていきますが、既存の制度では対応が難しいため、早期の支援が重要と考え、他関係機関と支援の方向性を一致させ、お子様の地域社会への参加を進めていきたいと考えております。